

1. 最近のわが国の経済の発展はめざましく、食生活の面でも所得の上昇、マスコミによる栄養知識の普及、啓蒙などにより向上し、国民の平均的栄養状態は順調に良くなっている。しかし、経済的にも社会的にも一般の水準からとり残されている僻地の日常生活、特に食生活はどのような実態であるかを知り都会の食生活との相違、国民の平均的栄養状態との格差を見出し食生活改善のための基礎調査を実施した。

2. 昭和42年7月、一級僻地に指定されている滋賀県伊香郡杉野部落の40世帯を調査対象とし食生活状況をアンケート方式により調査した。

3. 調査結果の概要はつぎの通りである。各家庭における調理担当者である主婦が家族の好みと労働時間に制約されているために、調理方法は単純なものが多く、使用食品の種類も小範囲に限定されている。又食品群別の摂取状況は植物性食品に偏重しており、肉類は殆ど摂取されていない。以上の事からこの部落では食生活の向上に対する関心はまだ低く、バランスを欠いた食生活をしており、食事は習慣的に空腹感をみたすだけのものになっており質的な考慮は全然なされておらず、早急に指導改善をする必要がある。